

2021年5月24日

各 位

会 社 名 東亜建設工業株式会社
代表者名 代表取締役社長 秋山優樹
(コード番号 1885 東証第一部・札証)
問合せ先 管理本部総務部長 木村徹也
TEL 03-6757-3800

取締役会の実効性評価結果の概要について

当社では、持続的な企業価値向上のためには、取締役会がその機能を十分に発揮し、ガバナンスの強化を図ることが重要であると認識しており、2015年度より取締役会の自己評価を実施して、その実効性の向上に努めております。

今般、2020年度における取締役会の実効性の分析・評価を実施しましたので、その結果の概要をお知らせいたします。

記

1. 評価の方法について

全ての取締役11名（内、監査等委員である取締役4名、その内、独立社外取締役3名）に対して、以下の項目を主な内容とする3段階評価及び自由記述による無記名方式のアンケートを実施し、その回答を集計・分析する自己評価方式により行いました。取締役会は、この分析結果を基に現状を把握・評価し、取締役会のあり方について意見交換を行い、取締役会における課題を共有すると共に、今後の取り組み方などについて確認しました。

《アンケートの主な内容》

- ・取締役会の役割・責務
- ・取締役会の規模・構成
- ・取締役会の運営状況
- ・取締役会に対する支援体制
- ・取締役としての自身の評価・意見

2. 分析・評価結果の概要

(1) 結 論

当社取締役会の規模・構成・運営状況、取締役会に対する支援体制等は、概ね適切であり、取締役会は有効に機能していると評価しました。

(2) 分析・評価

取締役会の役割・責務について、長期ビジョン「TOA2030」及び中期経営計画（2020～2022

年度)に基づき、取締役会の建設的な議論により経営戦略・経営目標を進めていること、その計画の達成状況を適切に監視していること、また、多角的なリスク分析や総合的な判断により、リスクヘッジ及びリスクテイクが適切に行われ、グループガバナンスの強化に向けた環境が整備されていることを確認しました。

一方で、株主への説明責任、株主とのコミュニケーションについて、まだ十分ではないとの意見や、取締役に対するトレーニング、及び将来の取締役候補者の育成のためのサクセッションプランについて、より充実させるべきとの意見がありました。

3. 昨年度に認識した課題への対応状況

昨年度認識された課題「取締役会は、顕在化した課題とは別に、個々の取締役が考える将来的な課題、中長期的方向性に対する考え、企業価値向上のための私案等を含め、潜在的なテーマについてもフリーディスカッションを行うべきであること」に対し、取締役会は、10年先を見据えた長期ビジョン「TOA2030」と3ヵ年の中期経営計画を策定するに当たり、現場や幅広い年齢層からの声を吟味し、建設的な議論を展開してきたことを確認しました。

4. 今後の取り組み

取締役会は、上記の分析・評価結果を受けて議論した結果、以下の点を課題として認識しました。

(1) 中長期的な企業価値向上に資する議論の深化

- ・長期ビジョン「TOA2030」の推進と広い視野からの議論の実施
- ・取締役会の相互の意見交換やブレインストーミング、将来を見据えた見解の交流、フリーディスカッションの場としての活用

(2) 当社「ESG経営基本方針」に基づく中長期の視点に立ったESG経営への取り組み

また、本年6月開催予定の定時株主総会の承認を経て、取締役会の構成は、監査等委員でない取締役8名(内、社外取締役1名)、監査等委員である取締役4名(内、社外取締役3名)の12名体制となる予定です。社外取締役を1名増員し、取締役会の監督機能をさらに強化するとともに、上記の課題に真摯に取り組むことで、取締役会のさらなる審議の充実と実効性の向上を実現してまいります。

以 上